

会議議事録

会議名	平成 29 年度第 3 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 30 年 3 月 17 日 (土曜日) 14 : 00 ~ 16 : 00 (2.0h)
場所	本校 7 階研修室
出席者 (敬称略)	<p>①委員 : 伊藤雄子 (保護者)、佐藤文雄 (高等学校関係者)、野間 弘 (卒業生)、藤井昌弘 (医療事務関連業界関係者)、保坂正春 (記録事業業界関係者)、宮武正秀 (福祉関連業界関係者) (計 6 名)</p> <p>②学校 : 橋本正樹 (校長)、宮下明久 (事務局長)、前田律子 (看護科担当副校長・学科長)、小田真理子 (速記コンピュータ科学科長)、吉川 香 (医療秘書科学科長)、村山由美 (医療秘書科副学科長) 黒田 潔 (医療マネジメント科学科長)、菊池聖一 (診療情報管理専攻科長・医師事務技術専攻科長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、宮嶋貴与 (鍼灸医療科学科長)、三宅かおり (教務委員長) (計 11 名)</p> <p>③事務局 : 川内靖美、高橋 稔 (計 2 名) (参加者合計 19 名)</p>
欠席者	中村博臣 (くすり・調剤事務科学科長)
配付資料	<p>①事前送付 : 資料 1 : 平成 29 年度第 2 回学校関係者評価委員会議事録、資料 2 : 平成 29 年度学校関係者評価報告書、資料 3 : 平成 29 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告 (別添 A : 平成 29 年度後期授業アンケート集計結果、コメントシート作成手順、別添 B : 平成 29 年度学校生活に関する調査・挨拶に関するアンケート集計結果、別添 C : 平成 29 年度教員研修計画・実績、別添 D : A O 入試入学予定者への入学前指導プログラム (スクーリング)、別添 E : 字幕制作・速記者養成科カリキュラム)、資料 4 : 平成 29 年度の重点目標と達成するための計画・方法 年度末点検報告、資料 5 : 平成 28 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み・改善の進め方 年度末点検報告</p> <p>②当日配付 : 資料 6 : 平成 29 年度卒業式資料、資料 7 : 教育研究 2017 第 35 号</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、3 月 14 日に卒業式が行われ、7 学科 2 専攻科、合わせて 336 名の卒業生・修了生を送り出し、本年度の教育活動が無事終了した。退学者は現時点で 22 名 (見込みを含む)、退学率は 2.91% で、目標の 3.5% 以内は達成できる見込みである。これは前年度 A O 入学者の退学が目立った医療秘書科での、A O 入試による入学者への対策等が功を奏したものと思っている。</p> <p>最近の教育をめぐる環境変化が激しい。18 歳人口が 30 年度からまた大きく減る中で、介護の領域などで留学生の流れが広がっている。本校では、次年度、介護福祉科で 4 名の留学生入学の予定がある。信頼できる学校法人立の日本語学校や就職先の施設等と連携し、入り口から出口まで留学生教育のよい流れをつくるため試行錯誤している。</p> <p>委員の皆様には引き続き本校のサポーターとしての貴重なご意見を賜りたい。との挨拶が行われた。</p>

2. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局高橋）

事務局より本委員会の議事録の作成方法について説明が行われた後、保坂委員長より、前回議事録（資料1）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。

3. 平成29年度学校関係者評価報告書について（説明者：保坂委員長、事務局高橋）

保坂委員長より、前回委員会においてまとめた平成29年度学校関係者評価報告書（資料2）の確認経過、及び平成29年12月20日付で校長に提出したことについて報告があり、確認、了承された。

また、事務局より、報告書は12月27日以降学内ネットに掲載して公表していること、3月中旬より本校ホームページに掲載して学外にも公表していることについて報告があり、確認、了承された。

4. 経過報告（説明者：宮下事務局長、三宅教務委員長、村山副学科長、吉川学科長、岩上学科長、事務局高橋）

平成29年度第2回委員会以降の主な経過について、各担当より資料3、資料6に基づき報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 平成29年度重点目標の年度末点検報告について（説明者：橋本校長）

橋本校長より、資料4に基づき今年度の三つの重点目標（①TPCの育成と強化、②退学防止、③教員研修）年度末点検結果について報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 平成28年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組みの年度末点検報告について（説明者：事務局高橋）

事務局より資料5の構成及び表中の「※4年度末点検」の記述経過について説明の後、ページ毎、項目順に質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 意見交換など

保坂委員長より、前回委員会でのご提案により、今回から自己点検・自己評価の枠にとらわれずにご発言をお願いする時間を設けたとの説明の後、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

8. 次回日程、その他

事務局より、次回は6月下旬の開催を予定しており、4月に日程調整を行うこと、テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ①平成29年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方の説明
- ②平成29年度活動の自己点検・自己評価結果（点検大項目）の報告

③平成 30 年度の重点目標の説明

最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

平成 29 年度第 3 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

4. 経過報告

○平成 29 年度第 2 回委員会以降の経過について宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局高橋より資料 3（別添 A～E）及び資料 6 に基づき、以下の報告が行われた。

1. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・平成 29 年度の重点目標として年間の退学率 3.5%以下を設定して退学防止に取り組んだ。
- ・2 月末時点での退学状況は全体で 2.1%であり、目標を達成できそうな状況である（活動）
- ・個人情報削除した上で「退学者・学籍異動の記録」と「退学防止の事例記録」を学内ネットに掲載して役立てている。
- ・科目毎の欠席届を担当に提出することで欠席情報を把握している。
- ・学生委員会を中心に以下の活動を進めている。
 - ①後期も前期と同様に 1 年生担任に対して退学の意向申出者への対応・経過についての調査を段階的に実施して、担任からの連絡、学生委員からの Gmail による保健室・学生相談コーナー利用促進などの対策を進めた、調査結果は学科にフィードバックして学科での対策にも生かした
 - ②また試験的に、医療秘書科 1 年生を対象に、担任による「1 週間の振り返り」を原則として金曜日の授業で実施し、兆候がある学生、欠席が多い学生の気持ちの把握と早めの対応に努めている。
- ・AO 入試による入学予定者に対する入学前指導プログラムの見直しを行った。（別添 D）

(2) 就職内定の状況

- ・各学科の学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる。
- ・2 月末時点での内定状況は就職希望者に対して 92.6%であり昨年度より 5%程度上回っている。
- ・求人及び各学科の内定状況と主な内定先（当日配付資料 6）

2. アンケート関連

(1) 平成29年度の実施状況

	授業アンケート		学校生活に関する調査 挨拶に関するアンケート
実施期間	前期：6/26(月)～30(金)	後期：12/4(月)～8(金)	12/4(月)～15(木)
実施数	・322 科目 7,429 回答	・292 科目 7,233 回答	・630 回答
質 問	・平成 29 年度改訂版		・平成 29 年度改訂版
集計結果	<ul style="list-style-type: none"> ・後期授業アンケートの全体集計概要（別添 A） ・科目担当教員には実施翌週速報、2/初集計結果報告 ・常勤教員はコメントシートに記述して3/末までに学科長に提出 ・30年度前期学科教員会において意見交換 		<ul style="list-style-type: none"> ・12/4 以前のインターシップ[®] 専攻生は個別実施 ・全体集計概要（別添 B）
公 表	・学内：教職員は学内ネットに掲載済、学生、兼任講師は5月に図書室に配架		・学外：非公表
	・学外：平成 29 年度活動の自己評価報告と合わせて本校ホームページに掲載予定		

3. 卒業関連

- ・ 3 / 8 (木) 卒業・修了判定会議
- ・ 3 / 14 (水) 平成 29 年度卒業式・修了式 (資料 6)

4. 教務委員会関連

(1) 平成 29 年度教員研修実施計画・実績 (別添 C 参照)

- ・ 職業実践専門課程の認定要件に基づく研修及び教務委員会主催の外部講師委託研修

(2) A O 入試入学予定者への入学前指導プログラム (スクーリング) (別添 D)

- ・ 3 / 12 (月) スクーリングを実施

5. 平成 30 年度新設学科

- ・ 学科名 : 字幕制作・速記者養成科
- ・ 修業年数 : 1 年、定員 : 20 名、カリキュラム (別添 E)

6. 学生募集関連

(1) 入学試験及び出願状況

	看護科を除く学科	看護科
既実施入試	10/14(土)、11/11(土)、11/25(土)、12/16(土)、 1/20(土)、2/10(土)、3/3(土) 特待生、推薦、セガ奨学生、A O、外国人、一般	10/29(日) 指定校・公募推薦 11/25(土) 社会人・キャリア 一般 I 期:1 次 11/25(土)、2 次 12/9(土) 一般 II 期:1 次 2/4(日)、2 次 2/10(土)
今後の日程	3/24(土)	—

7. 職業実践専門課程関連

(1) 教育課程編成委員会の開催

	医療事務分野教育課程編成委員会	福祉分野教育課程編成委員会
対象学科	医療秘書科、医療マネジメント科 (診療情報管理専攻科、医師事務技術専攻科)	介護福祉科
第 2 回	2 / 22 (木)	2 / 19 (月)
主なテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 29 年度の教育活動と学科運営に関する報告 ・ 平成 29 年度の教員研修に関する報告 ・ 平成 30 年度のカリキュラムについて説明、意見交換他 	
次回の予定	・ 次回委員会は平成 30 年 7 月を予定	

8. 平成 29 年度活動の自己点検・自己評価関連

点検委員会	報告資料名	記述者	参照
2 月	①平成 29 年度の重点目標と達成するための計画・方法 (年度末点検報告)	校長	資料 4
	②平成 28 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組み・改善の進め方 (年度末点検報告)	各担当	資料 5
3 ~ 5 月	③平成 29 年度活動の自己点検・自己評価報告書 (点検中項目)	各担当	次回委員会に報告
	④平成 29 年度活動の自己評価報告書 (点検大項目) ③のまとめ	事務局	
	⑤平成 29 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への	各担当	

	取組の進め方 ②に続くもの		
	⑥平成30年度の重点目標と達成するための計画・方法	校長	

9. その他

○学生の状況については宮下事務局長より以下の補足が行われた

- ・退学は、資料は2月末時点のもので、3月に入って1年16名、2年生5名、3年生・専攻科1名、合計で22名、2.9%となる見込み。
- ・就職内定は2月末時点で前年度より約5%上がっている。今年度は昨年度以上の数字を目指して最後の一人一人に対しての指導に取り組んでいる。
- ・資料6に各学科の内定状況と主な内定先として、病院、調剤薬局、福祉施設の名称を報告している。

○後期アンケートについては、事務局高橋より以下の補足が行われた。

- ・授業アンケートについては、学校関係者評価委員会でのご提案をもとに、今年度改訂で後期より常勤教員を対象にアンケート結果を渡したあと、それぞれ学科長宛にコメント書いて提出することを始めた。
- ・学校生活に関する調査、挨拶に関するアンケートも改訂を行って実施した。結果は各学科は学科運営計画、事務局各部署にかかわるものは各部署の業務計画、挨拶は学生委員会が学生指導に反映することで結果を生かしている。

○卒業関連については、宮下事務局長より以下の補足が行われた。

- ・卒業・修了判定会議において卒業生、修了者及び3月末卒業生予定者、卒業不可者の確認を行っている。

○教務委員会については、三宅教務委員長より以下の補足が行われた。

- ・教員研修実施計画・実績については、外部研修の受講数は2月末現在で昨年度の1.37倍、2年前の2.5倍と大幅に増加している。教員の意識向上や意欲の高まりを表したものと受け取っている。
- ・背景には研修受講のための授業の移動を可としたこと、外部研修受講補助費を新設して個人負担の受講費用の補助を行ったことがあると考えている。
- ・教務委員会主催の学内研修は、8月3日にプレゼンテーション実践研修、2月27日に職場コミュニケーションを活性化させるアサーティブ研修を行った。共に高い参加率であり、研修後のアンケートでも高い評価となっている。
- ・来年度も2回、夏季休暇中には指導案をつくって授業の組み立てを考える研修と、春期休暇中には会議のやり方を効率的にするというファシリテーション研修の実施を検討している。

○入学前指導プログラムについては、教務委員会の担当リーダーの村山副学科長より以下の補足が行われた。

- ・AO入試入学者の3回目の課題を大幅に見直して各回の目的を明確にした。また3回目は2部構成のスクーリングとして実施した。対象人数は46名、参加者は42名で4名の欠席があったが、いずれも事前または事後に電話連絡があり、3名が体調不良、1名は学校行事と重なったという理由だった。
- ・スタッフは事務局と教員に加え、法人本部からも2名を選出し、総勢20名で行った。
- ・スクーリングIは、8階視聴覚教室を三つのスペースに分けて、それぞれ場所を移動しながら、校長あいさつ、学生スタッフによる学科の紹介、本年度の入職職員による事務局の紹介を行った。
- ・「友達づくりの機会」としてのグループワーク、SOKKI体験ラリーは、学校内をめぐり、学校内の施設を紹介するゲーム形式にした。「わ・せ・だ・そ・っ・き」の六つのミッションをクリアする

- とグループで撮影した写真付きの修了証を発行し、記念に持って帰っていただくという内容にした。
- ・スクーリングⅠのアンケートでは、「これから一緒に学んでいく方と交流できて楽しかった」「違う学科の人とかかわることができた」「協力することで仲よくなれた」の他、「最初は不安で話せなかったけれども、交流することで話せるようになった」「初対面の人がたくさんいる中で話せてよかった」という回答もあり、スクーリングの必要性を再確認することができた。
 - ・スクーリングⅡは学科に分かれて、「専門分野の導入」を目的とした90分のプログラムを実施した。具体的な内容は学科から報告をもとに現在集計中である。
 - ・スクーリングⅡアンケートは、「初めて知ることが多くて楽しかった」「難しかったが、学生の方や先生たちが教えてくれたので理解できてよかった」「しっかり勉強していきたいと思った」などであり、ある学科では「入学までに生物の復習をしておこうと思った」と、自ら課題を持ち帰るような感想に導くこともできている。
 - ・今後の課題としては欠席者への対応とアンケート集計・分析、各学科の報告書によるスクーリングⅡのまとめなどがあり、引き続き検討していく。
- 平成30年度新設学科については、宮下事務局長より以下の補足が行われた。
- ・修業年限1年間、定員20名の字幕制作・速記者養成科を新設する。
 - ・速記コンピュータ科を引き継ぐ学科であり、カリキュラムにあるようタイピングの単位数、授業時間数が多く、リアルタイムに字幕をつけていく技能を身につけることを目指している。
- 学生募集については、宮下事務局長より以下の補足が行われた。
- ・看護科は全ての入試が終了し、出願者数が128名で前年の94%という状況だが、定員は充足できる見込み。倍率は3.65倍で、前年よりは下がっているが、まずまずの応募状況であった。
 - ・看護科を除く学科については、3月24日に最終の入試がある。昨日時点での全体の出願者数は3名増で290名、前年比91%という状況。学科ごとでは医療秘書科はやや苦戦をし、医療マネジメント科は122名で前年比103%、くすり・調剤事務科20名で前年比91%、介護福祉科、鍼灸医療科、字幕制作・速記者養成科は変更なしとなっている。
- 職業実践専門課程については、教育課程編成委員会に関して吉川学科長と岩上学科長より以下の補足が行われた。
- (吉川学科長)
- ・医療事務分野教育課程編成委員会では、本年度の状況と平成30年度のカリキュラムについて説明した。また、平成31年度以降について、人間ならではのよさを発揮した医療事務分野での教育活動についてご意見をいただいた。
- (岩上学科長)
- ・福祉分野教育課程編成委員会では、平成31年度に指定カリキュラムの見直しがあることから、現在検討されている改正案の概要を説明した。学科のカリキュラムは、その上で外部委員からご意見をいただいて編成する予定。
 - ・来年度は外国人留学生が入学予定なので、それに対してのアドバイスとか、施設での対応などについてご意見を伺った。
- 自己点検・自己評価については、事務局高橋より以下の補足が行われた。
- ・今年度の重点目標と昨年度の学校関係者評価報告書に示された課題については、本日年度末点検結果を報告する。

- ・平成 29 年度全体の自己点検・自己評価を現在実施している。平成 30 年度の初回委員会にご報告し、評価をいただく予定。
- ・平成 29 年度学校関係者評価報告書に示された課題についても、平成 30 年度の進め方を各学科での検討している。あわせて来年度初回の委員会にご報告する予定。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□スクーリングは全員を対象に行うのが望ましいと思うが、なぜAO入試だけなのかという違和感はなかったか。	□特に声は上がらなかった。AO入試の 方 はそもそも3回の課題があるので、そのうちの1回がスクーリングだと考えていただけるものと思う。

5. 平成 29 年度重点目標の年度末点検報告について

○橋本校長より資料 3 に基づき以下の説明が行われた。

① T P C の育成と強化

- ・4月当初に、学生が学ぶことの楽しさを実感し、自主的に学びを深めるきっかけとなる授業をすることを29年度の第1目標として示した。
- ・今後、留学生が入ってくることや日本人でも分野によっては学力的に厳しい学生が増えてくる中で、従来のテキストを使った教え込み型の教育は限界に来ているとの声が出ている。アクティブラーニングなどを通して自ら学ぶ自主性をつけさせたい。
- ・学園祭等の学校行事について学生たちが自分で企画すること、また次年度の入学時オリエンテーションでは、今回やったAO入試による入学者対象のスクーリングの拡大実施を考えている。

② 退学防止

- ・平成 29 年度は久しぶりに 3.5%の目標を達成できそうだ。28 年度に目立った医療秘書科のAO入試による入学者への対策として、入学時のフォロー、早い時期の面談、ゴールデンウィークや夏休み明けの声かけなどにより成果が上がった。これを参考に他の学科も進めていきたい。
- ・看護科も指定校入試、公募推薦などで、ぜひ本校で学びたいという人を増やしていきたい。その人たちは早めに入学が決まるので、今回のAO入試入学者に対する試みをきっかけとして、拡大させていきたい。

③ 教員研修及び授業公開の推進とインストラクションスキルの向上

- ・教員研修は参加が非常に増えている。多少の授業変更をしての参加も認めたことや費用面で若干の援助をしたこともあり、意欲的に参加し、外の空気に触れる機会が増えたのはよかったと思っている。
- ・教え方の工夫など、そこで得たものをほかに広げていきたい。
- ・授業公開は常勤教員の中では定着してきたので、さらに兼任の先生方も巻き込んでいき、お互いに高め合うという流れをつくっていきたい。
- ・「教育研究」への発表により、教職員自ら教育活動をしっかり考え、活発にするという活動も少しずつも形になってきたと思う。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

② 退学防止

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□毎年、退学防止が重点目標に入っているが、本	□数年前に一度 3.5%以内を達成したことがあるが、

<p>校は専門学校の平均値よりかなり低く退学率を抑えられている。これ以上上げるのは限界があると思うので、退学防止の目標は維持しつつも、来年度以降はあえて掲げなくてもよいのではないかな。それよりも学修成果（検定の合格率等）に関連する目標が出てきてもよいように思う。</p> <p><input type="checkbox"/>退学防止については、目指すのはゼロで、結果的にこうなったという形で通すこともできる。</p>	<p>翌年は大きく増えた。ゼロは極めて難しいので、少なくともここは守りたいという意味として挙げておく数字だと思っている。検定等の合格率は、学科の目標として考えている。各学科の授業運営計画に毎年載せて、年度末点検もしてもらっている。</p>
---	---

③教育研修及び授業公開の推進とインストラクションスキルの向上

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>教務委員長の報告にもあったが、先生が勉強するのは非常によいことだと思う。勉強したことを学生たちへフィードバックするという本来の目的を忘れないでいただきたい。</p>	<p><input type="checkbox"/>1月18日、校外研修「教職員のための中途退学防止戦略」に4人の教員が参加したが、内容が本校にマッチしていたので、一昨日、教職員全体会において全教職員に向けて伝達研修を初めて行った。全員で同じ視点で理解して、新しい取り組みを始めようということの第一歩になったと思う。今後も全員で共有してから、学生にもフィードバックしていきたい。</p>
<p><input type="checkbox"/>教務委員会が主催されている2回の研修は、内容もよいので、兼任講師の先生方にも呼びかけてはどうか。</p>	<p><input type="checkbox"/>検討する。</p>

6. 平成28年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組みの年度末点検報告について

- 事務局高橋より資5の構成及び表中の「※4年度末点検」の記述経過について説明が行われた。
- 保坂委員長より、資料5は事前送付されていることから、ページごとに項目順の質疑応答で進める旨の説明が行われ、年度末点検記述について順番に質疑を行った。
- 委員からの質問、意見と回答は次のとおり。

3. 教育活動：目標の設定

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>4ページの一冊右側、11月29日に介護福祉士学力評価試験とあるが、これはどういう試験か。</p> <p><input type="checkbox"/>国家試験の結果は出たのか。</p>	<p><input type="checkbox"/>介護福祉士学力評価試験は、介養協の主催する試験で、今までは卒業時共通試験といていたが、国家試験に合わせて名称を変更した。もう一つの福祉事務検定は民間で行っている試験で、介護福祉士の国家試験の問題と類似している部分がある。検定を通して国家試験に慣れておくという意味と、在宅の介護を目指す学生にとっては持っているよい資格なので、授業の中に取り入れている。</p> <p><input type="checkbox"/>自己採点では10名中10名が合格であろうということで、結果は3月28日に出る。</p>

3. 教育活動：成績評価、単位認定

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> 6 ページの右側の一番下に日野原重明賞とあるが、こういうことをホームページの新着情報コーナーなどで発表されているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 近隣の中学や高校で、「○○君、県大会出場」等の垂れ幕を見るが、学校のどこかの掲示板に「医療秘書科○○さん、日野原重明賞受賞」等を掲示する予定はないか。</p> <p><input type="checkbox"/> 日野原先生は高名な方なので、一般の方が見てもすごい賞をいただいたのかなという感じはある。</p> <p><input type="checkbox"/> 医療秘書科は日本で最初にできた学科で、歴史も実績もあるので、外への見せ方や訴え方を工夫してほしい。</p> <p><input type="checkbox"/> その辺は、募集広報協議会で話し合われているのか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 既に掲載している。（宮下事務局長）</p> <p><input type="checkbox"/> 校舎に掲示スペースがあまりないので、そこまでは検討していない。ホームページを中心に広報していきたい。</p> <p><input type="checkbox"/> 一般の方もそうだが、在校生、後輩のためにも実行したほうがよい。</p> <p><input type="checkbox"/> 今年の実績は残念ながら医療秘書科ではないが、本校はそういうアピールが不足していると思う。通りを通る人が気づくようなアピールの仕方を今後考えていきたい。</p> <p><input type="checkbox"/> 昨年も同じことをその場で表明したが、実現に至っていない。</p>

5. 学生支援：中途退学への対応

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> 10 ページ、くすり・調剤事務科のところで、入学対象者を授業参観に招いて、3名入学につながったと書いてあるが、どういうことか。また、ほかの学科も入学対象者を授業参観に招いているのか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 平日、通常の授業がある期間に来校された方は、可能などところで実際の教室に入って見学できるようにしている。</p>

5. 学生支援：保護者との連携

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> 成績等を保護者へ報告したらどうかという意見に対して、「予定の時期を過ぎてしまったが、現在までに実施可否かの判断がされていない。予算や準備の状況により次年度に判断を行う」と書かれている。何年間か経過してきた中で何も進んでこなかったと受けとめられるが、この辺の状況を説明してほしい。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者との連携に関してはあまり進んでいないなという印象がある。保護者会の効果に疑問を持つところもあるかと思うが、保護者との連携を深めていく工夫は必要だと思う。こちらから呼びかけて相談したい方は来られるようなシステムづくりを考えてはどうか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 学籍簿には、個人情報をお知らせすることがあると記載されているので、送ることは可能と判断できる状況にはある。社会人の入学者は対象から除外する等の判断と、かなり重要な個人情報を送ることになるので、郵便物の誤配達を考慮すると、一番安い簡易書留でも1人400円ぐらいのコストがかかる。その予算措置がネックとなって進められていない状況にある。</p> <p><input type="checkbox"/> ご意見として伺った。</p>

<p><input type="checkbox"/>保護者との連携では、希望者が登録する形のメール配信サービスを考えてはどうか。今回卒業させていただいたが、卒業式の日も知らなくて、子供に聞いて初めてわかった。1カ月の予定が送られてくるだけでも親として何があるかわかるので、可能であればご検討いただきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>ホームページとは別に、保護者だけが入れるようなパスワードを使って情報を提供している学校もある。</p> <p><input type="checkbox"/>うちの地域では、ほとんどの方が登録している。最初はアンケートで希望を聞いて進めていってもよい。</p>	<p><input type="checkbox"/>費用的にはそんなにかかることではなくて、どちらかと言うとメンテナンスの部分になってくると思うので、こういった形でできるのか考えていきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>私もご家族が登録して学校の情報や子供の状況を確認される方法が一番有効だろうと想像していた。登録を積極的に捉える方と消極的に捉える方の割合がよくわからなくて、その部分だけが心配なところではあったが、今どきはそういう捉え方でよろしいのか。</p> <p><input type="checkbox"/>当校は入学式後に保護者向けに事務連絡等を行うので、そこで登録の話をすればやりやすいのかなと思う。</p>
---	---

5. 学生支援：卒業生・社会人学生

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>11 ページの一番下の右側、第2回卒業生支援講座の参加者が卒業生 38 名、在校生 21 名、その他 4 名とあるが、その他というのはどういう方か。</p>	<p><input type="checkbox"/>その他 4 名のうち 2 名は、卒業生が実際に就業している医療機関の同僚で、残り 2 名は職員が参加した。</p>

7. 学生募集

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>学生募集のところで、オープンキャンパスや入学試験の時期、回数はどのように決めているのか。</p> <p><input type="checkbox"/>学校見学は随時、連絡があったら対応するのか。</p> <p><input type="checkbox"/>オープンキャンパスや入試の回数を増やすことによって先生に負担がかかり、本来の教育活動に影響が出てくると本末転倒にはなるが、他校に比べて回数が少ないということはないか。</p> <p><input type="checkbox"/>ことし初めて文化祭に来させていただいた。高校生が見たほうがいいのかと思うような内容と感じたが、ちょうど期末試験と重なって高校生が来づらい時期なので残念と思った。オープンキャン</p>	<p><input type="checkbox"/>オープンキャンパスについては、前年度の状況、他の競合校の状況、募集目標人数等を勘案して広報室が各学科と相談しながら起案し、学科長会、校務運営会議で日程を決定している。入試は、入試委員会で前年度の状況、他校の状況を考え合わせて起案し、入試委員会、校務運営会議で決定する。</p> <p><input type="checkbox"/>一斉休業期間以外の平日は、希望日と希望学科の授業の状況を確認して案内し、実際に見学をしてもらっている。</p> <p><input type="checkbox"/>一般的なオープンキャンパスだけでも年間 40 数回ある。それに学科独自のイベントを合わせると 50 回を超えており、限界に近い数にはなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>ご意見として伺った。</p>

<p>パスの回数を増やせないのであれば、行事のときにも入試相談ができるような形にしていくと、先生方の負担も減ってくるのではないかと。</p> <p>□媒体業者に学校 PR の掲載をされていると思うが、その費用対効果とか業者の選択、PR の仕方についてはどうか。</p>	<p>□そこは毎年効果を見て見直しをしている。紙やネットで学生募集を行う業者については 1 件当たりの単価も高いので、かなり絞って広告を掲載している。高校ガイダンスは、ほぼ一都三県でガイダンスを行っている業者と取引をしている状況である。</p>
--	--

7. 意見交換

○保坂委員長より、前回委員会でのご提案により、今回から自己点検・自己評価の枠にとらわれずにご発言をお願いする時間を最後に設けたとの説明の後、以下の意見交換が行われた。

○委員と本校出席者との意見交換は次のとおり。

(留学生受け入れに関して)

- ・冒頭に介護福祉科に留学生 4 人を受け入れるようになったという話があったが、実際に留学生が学んでいく中で、予想される課題についてはあらかじめ準備しておくことも大事だと思う。例えば、日常会話はある程度できて、介護福祉に関する専門用語はなかなか理解しにくいということもあると思うが、対策は考えているか。
- ・1 年間だけ千葉県のある大学で教えていたが、その 6 割が東南アジアの学生だった。一応日本語は、普通の会話ができると言われていたが、実際に行ってみたら日本語のレベルもまちまちで、医療制度も全く異なる中で、ステップを下げて話をしなければいけないという課題があった。留学生が少人数であればマンパワーで対応が可能かもしれないが、今後留学生が増えてくることを想定するのであれば、対応も根本的に考え直さなければいけないと思う。
- ・今使用するテキストにルビを振るとか外国人向けのテキストも検討していきたい。また、用語や重要なポイントだけをまとめたサブテキストも考えている。
- ・入り口から出口まで、一つのモデルケースとしてリーダーになれるような外国人を育てることを目的として、現地での募集から、現地の日本語学校での日本語の勉強、さらに日本に来てまた日本語学校で学んで、本校に入ってくるような流れをつくりたい。アルバイトも、介護に全く関係のないアルバイトではなく、施設で、実際の学びに近い内容のアルバイトができる環境や宿舎提供、奨学金も考えている。教育ノウハウについては、文部科学省の助成研究等でアクティブラーニング的な研究をしている日本語学校の報告もある。そういったところも参考にしつつ、私自身も研究会に入って、他校の状況も見ながら積極的にやっていって、本校ならではの信頼できる仕組みをつくっていきたい。

(学生募集などに関して)

- ・医療秘書科の良いところを訴えたい。退学者が減ったことは努力した結果だと自画自賛しているが、**今年**の卒業生で秘書検定の準 1 級合格者も現れた。診療報酬請求事務の試験の結果も比較的例年より上だったと思う。退学者が現れないことで、クラスの中の学習意欲や雰囲気も好転し、いい方向へ回っていくような波及効果もあったのではないかとと思う。これを繰り返すことで、医療秘書科だけでなく、「入学すれば辞めたくない学校です」というような売り言葉ができるようになればと思っている。

- せっかくの良い学校というか、素晴らしいことをしている学校なので、ぜひこれが皆さんに伝わるように、伝え方を考えていっていただきたいと思う。

以上